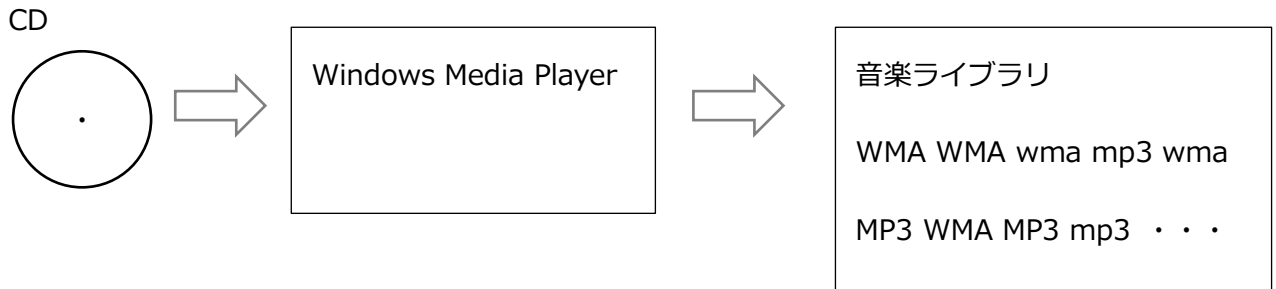


前提

1. Windows Media Player で WMA という標準属性で CD から音楽ライブラリを作っていた。
2. 編集の過程で MP3 という属性の音楽ファイルに変換して混在している。



3. Ipod nano という携帯音楽プレーヤーに、これらの曲をコピーしたい。
 - 3-1 直接的にコピーはできないようだ。無償という名目で試行するソフトがあるが一度きりで有償。
 - 3-2 Itune という音楽管理ソフトが、変換、置き換えの管理をしてくれる。(mp3、m4a 等を扱う)
4. Itune を使うのが前提で作られている。音楽の購入には、アカウントを作り課金清算の登録が必要。

とにかく、Apple 社から Itune をダウンロードして使ってみた。

使用時の記録

- a. オプション設定を何もしないで(知らずに)立ち上げてみた。

ライブラリの mp3 属性の楽曲が、Itune のプレイリストに認識されて出てきた。wma は無視される。
- b. wma の楽曲を mp3 に別ソフトで変換して、追加してみる。

Itune のファイル操作のメニューから「ファイルをライブラリーに追加」を選んで mp3 を指定すると追加されるのが確認された。「フォルダーをライブラリーに追加」という選択肢もある。
- c. Itune の編集メニューからオプション設定ができる。

標準で扱われるのが AAC 属性であるから mp3 に変更する。また、Itune ライブラリ内に取り込むと基本的に属性変更をしてくれる。オプション設定後に上記 b の操作をすれば良いのであった。

そして、プレイリストで選択し Ipod などをつないで同期する使い方である。
- d. Ipod に指定した曲だけを入れたい場合は、Itune のプレイリストで楽曲ナンバーの次のチェックを外してやれば良いようだ。チェックのついた楽曲だけが同期されるように、同期時の指定をするようになって

ている。また、フルチェックのまま歌手名で選択するなどの指定もできるようだ。

同期をするときに、例えば、他人のコンピュータライブラリにつなぐときなどは、自動的に同期されないように、Itune のオプション設定などに注意が必要である。すべて消されてしまうかもしれない。もしくは、チェックされた楽曲に置き換えられてしまうからである。(Ipod 接続時自動立ち上げ機能なども注意が必要)

感想

Itune という音楽管理ソフトを初めて使ってみた。備忘録として書き残します。

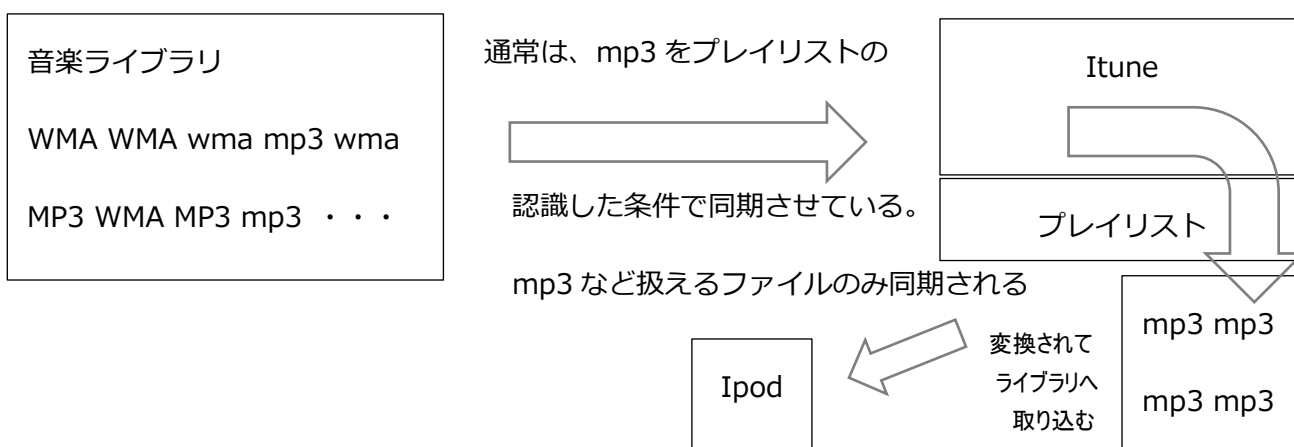
Iphone、Ipad、Ipod などの端末に、そのまま音楽をコピーできないように、Itune という管理ソフトで同期するように設計されているため、Apple 製品を使うには、メディアプレーヤーも mp3 基準で使っていけば簡単かもしれないと感じた。今後、CD から楽曲を取り込む際に、mp3 として取り込むようにオプション設定した。

Itune ライブラリに取り込んでしまうには、現存する wma 属性の楽曲とダブってしまい、格納エリアが倍になるのではないかと考えられ、今後の一元管理の仕方を考えなければならないと感じた。

Ipod などは、音楽のほかには画像や映像なども使えるもので詳細は不明だが、使えば使うほどいろいろできる機器である。検索すれば検索するほどユーザガイドだけでは、理解できないことが多いかもしれないと感じた。後は、使い慣れていくしかないかもしれません。

今回の試行は、この辺で置きます。今後この記録を使う時が来るのかどうか・・・。

パソコンのミュージック実態ライブラリ



パソコンのミュージックライブラリの中に Itune というホルダーが作られ、上の図のライブラリを作る。

音楽を管理するソフトの認識上で混乱しなければ、mp3 属性で一元管理が可能かもしれない。

使い方のヒント

今後、メディアプレーヤーをメインに使うのか Itune をメインに使うのか、いずれにせよ音楽ファイルをダブらないように一本化するとディスク格納エリアなどの運用上経済的である。

- ・一つの考え方は、Itune ライブラリに取り込んだファイルを活かし wma ファイルを消してしまい、メディアプレーヤーのプレイリストを作り直す使い方である。
- ・もう一つの考え方は、media player と Itune のプレイリストをどちらとも消してしまい、Itune ライブラリから正規のミュージックライブラリにファイルを移動させてから、もう一度両者のプレイリストを作り直してやる方法だ。

フォルダーの管理方法など、ややこしい使い方にならないようにデータベース化してやらなければならないと考える。

Itune は、wma ファイルから mp3、もしくは、設定によって m4a(AAC)ファイルに変換してくれる。コンバータとしても使えるのであるから、いろいろな携帯端末を利用するときに便利かもしれないと考える。

Itune でエンコードしたものは、ファイルのプロパティの詳細に記録される。その表示があるものをライブラリ移動した場合は、プレイリストに取り込みされない。改めてプレイリストを作る際は、エンコード欄の記述を消しておくが良い。指定がないことで改めてすべての項目を読み込んでくれるようだ。

フォルダーアートを書き換えたい場合は、フォルダーを右クリックしてプロパティを選ぶ。

その中にアートワークという設定画面があり、フォルダーごと、もしくは、ファイルごとに設定できる。ファイルの印刷という機能でフォルダーを指定すると登録一覧がプリントされて出てくるのも便利です。

今後の課題

Itune でエンコードしたファイルに、アートワークで映像が反映されないことがある。

Itune 内部のことなのだろうか、プロパティを書き換えると出来たり出来なかったりうまくいかない。

タイトル欄、エンコード欄を消すとうまくいった。まだまだ見逃している設定などもあるかもしれません。

時間が解決してくれればよいのですが、バグなのだろうか。やり方が悪いのだろうか。

今後の課題として、備忘録に残しておこうと考えます。